

渡辺復興大臣記者会見録

(平成30年10月5日(金) 15:20～15:28 於) 岩手県庁)

1. 発言要旨

本日は、達増知事と意見交換をさせていただきました。達増知事には、先程プレスの皆様方もいらっしゃいましたけれども、私の方から安倍総理の思いを伝えさせていただいたところでもあります。

午前中に、内閣改造後はじめての復興推進会議が開催されたわけでもありますけれども、全閣僚出席のもとで、復興に対する思いを、実際の施策の進捗の度合いを、お話を伺ったところでもあります。総理からは現場にしっかりと寄り添い、そして被災者の心に寄り添って、復興をなし遂げるように指示がございました。私自身も、これから現場をしっかりと見ていくことが大事だし、現場の皆さん方の声を聞くことが大変重要であると、そのような思いで、本日、達増知事との面談を予定したところでもあります。

知事から私に対して、現在の復興状況についての説明もありました。復興が十分なし遂げているわけではないということで、まだ途中の部分もあるんだ、しっかりと国としても支援をしてほしいというお話でありましたし、さらには、この岩手県については、2019年ワールドカップラグビーの大会がございました。こういったところに、しっかりとこの一つのステップアップとして、岩手県が元気になるように取り組んでいきたいので、その点についても、国としての支援をお願いしたいという話もございました。私といたしましても、県と、そして国、そしてさらには市町村の皆さん方と連携しながら、様々な御意見をお伺いして進めてまいりたい、そのように思っているわけでもあります。

特に、被災者の皆様方が危惧しているのは、心のケア、これが必要ではないかという知事からのお話もございました。そのとおりだというふうに思っております。ふだんは、普通の平屋や2階建ての家に住んでいた人が、災害公営住宅に入ったときに、いわゆるマンション形式のところに入り、鉄のドアがあることに対するやはり抵抗というものもあるんだというお話も聞かせていただきました。こういったことを考えていきますと、被災者に対するきめの細かい心のケアは本当に大切だなというふうに感じたところでもあります。

これからも、しっかりと連携しながら復興を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

2. 質疑応答

(問) 先程、大臣のお話にもありましたけれども、今日、改めて達増知事とお話しされて、岩手県の課題、どういうところが一番の課題として捉えていらっしゃるでしょうか。

(答) 岩手県の課題は、ほかの地域にも共通するところがありますけれども、災害復興のために取り組んでいる、まずは住まい、さらには産業やなりわい、こういったところにしっかりと手を差し伸べていかなければなりません。そして人口の減少に対しても、しっかりと対応していく必要があるなというふうに思っておりましたけれども、ある地域においては、知事はまだ人口が増えているところもあるというような御認識でありました。

でも、全体を捉えていくなれば、人口減少に対する取り組みというのは本当に大事な取り組みだというふうに思っておりますので、これはさらに連携をしながら、どういうふうにしたら人口を伸ばしていくことができるのか、または維持することができるのか、しっかりと考えていきたいというふうに思っております。

(問) また、復興の総仕上げということで、復興・創生期間までの残り2年半、どんなふうに取り組んでいきたいのでしょうか。

(答) これは、先程も申し上げましたとおり、当然のことながら被災者に寄り添っていくということが一番大事であります。被災者の皆さん方の気持ちをしっかりと受け止めていかなければならない。そしてまた、復興のための住まいの確保と、それから、今言ったように産業となりわいをどのようにしっかりとサポートできるか、この2年半が勝負だと、私はそのように思っておりますので、この点を集中的に対応してまいりたいなど、そのように思っています。

(問) 野党からは、被災県出身ではないということで、現場を知らないんじゃないかとか、これまでの流れがもう一回接続しなくてはいけないんじゃないかとか、そういう批判もありますけれども、その反論というのはどうですか。

(答) 反論は当然あります。何かと言うと、復興大臣というのは、出身の県であろうとなかろうと、この東日本大震災の災害に対して、しっかりと復興するという、その目的があるわけでありますので、これは被災県出身でないということの批判は当てはまりません。ましてや、この問題については総理が先頭になって、この東北の復興がなければ日本の再生がないと言っていることでもありますので、私はその言葉をしっかりと受け止めて、その被災県の皆さん方の安心・安全、そして県としてさらに発展できるように、全力で取り組んでまいりたい、そのように思っています。

(問) 大臣は、被災後沿岸部にいらっしゃるったり、そういったことってありますでしょうか。

(答) あります。岩手県は残念ながら1カ所でございますが、陸前高田でございます。このときは、私自身も余りにもショックでありましたので、現地の状況をこの目で見ていきたいということで、陸前高田のほかに、宮城県、そして福島の方を回らせていただきました。

(問) 大体いつごろでしたでしょうか。

(答) 3. 11から2カ月後、まだまだ道路がなかなか通らないところで紆余曲折しながら、かなり遠回りしながら来たという記憶がございます。

(問) 何日間かにわたっていらっしゃったんですか。

(答) 10日くらいかかったかなというふうに思いますけれども、その辺はちょっと記憶が大分薄れてしまったと。

この問題が、やはり風化させてはいけないという気持ちも当然ありますので、日本の国民の皆さん方に、この東日本大震災のこの問題については、しっかりと同じような気持ちで対応していただきたいなというふうに思っています。

(以 上)